

年 組 名前 :

# 世界の海鳥 **A** % 化学物質汚染

### 問1

見出しの**A**に入る数字は何ですか。

『世界の海鳥 **A** % 化学物質汚染』 **A** 「 %」

### 問2

プラスチック添加剤が検出された「海鳥の名前」と、「見つかった場所」を3つ挙げてください。

① 鳥の名 : .....

場 所 : .....

② 鳥の名 : .....

場 所 : .....

③ 鳥の名 : .....

場 所 : .....

### 問3

国際チームは、プラスチック添加剤による海鳥の汚染を減らすためにどうすべきだと指摘していますか。

.....  
.....

## プラスチック原因 国際チーム指摘

世界各地の海鳥の52%からプラスチックに添加剤として加えられる化学物質を検出し、東京農工大や北海道大などの国際チームが、環境化学の専門誌に発表した。これまで化学物質の広がり具合は詳しく分かっておらず、高田秀重・東京農工大教授は「プラスチックによる海鳥の汚染が、地球規模で広がっている。生物の体内に蓄積せず、毒性が低い添加剤への転換が急務だと指摘している。

国内外の18の大学・研究機関が世界16カ所で共同調査し、32種の海鳥計145羽について、尾羽の近くの器官から分泌される尾腺ワックスという脂肪を分析。このうち52%に当たる76羽から、プラスチックを燃やにくくしたり、紫外線による劣化を防いだりするための添加剤が検出された。胃の中にプラスチックク片が見つかったケースもあつた。

国際チームは、今回分析した海鳥のうち最大30%が、プラスチックの摂取によって体内の添加剤濃度が上がったと推定。それ以外は、魚など食物経路で添加剤を摂取したとみられている。

本報の調査は、日本（新潟県）のオオミズナギドリのほか、北極に近い米セントローレンス島のコムミスズメや南極に近い南アフリカ・マリオン島のアオミズナギドリで検出。フランス領ケルゲレン島のジェンツーペンギン1羽からも見つかった。

プラスチック添加剤は、日本の薬品（新潟県）のオオミズナギドリのほか、北極に近い米セントローレンス島のコムミスズメや南極に近い南アフリカ・マリオン島のアオミズナギドリで検出。フランス領ケルゲレン島のジェンツーペンギン1羽からも見つかった。

328」も、ガラパゴス諸島の海鳥などで確認された。米ハワイ・カウアイ島や西オーストラリアの海鳥では添加剤の濃度が高かった。餌と間違えるなどしてプラスチック片を摂取し、添加剤が体内で濃縮されたとみられる。

(2021年10月26日付 山梨日日新聞15面)